

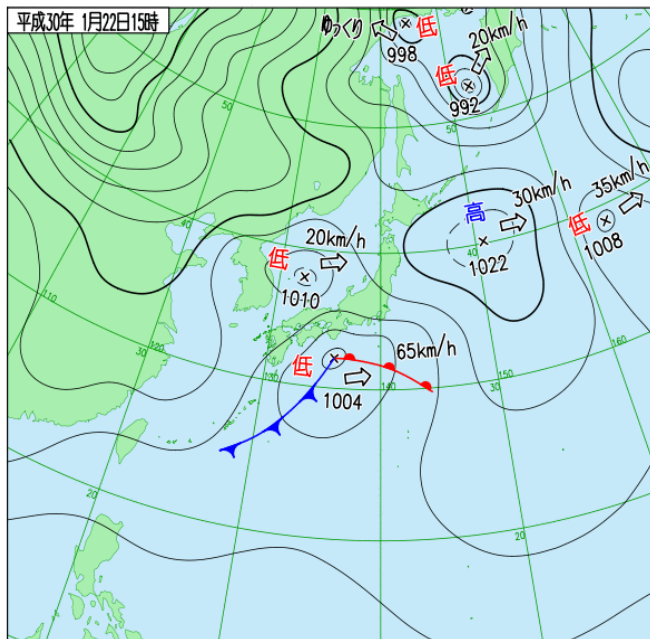
「東京の雪(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今日の東京は予報通り、数年ぶりの大雪になった。東京で雪が降る原因は、主として「房総前線」と「南岸低気圧」の二つと言って良い。



「房総前線」は、冬型の気圧配置の時に、関東付近の等圧線に「歪み」が発生し、房総半島~三浦半島にかけて発生する停滞前線である。局地的で弱い前線なので列島天気図には現れないことが多い。しかし、この前線の北側には横浜や東京などの大都市があり、降雪に見舞われることもある。ただし、雪の規模は小さいことが多い。



もうひとつが「南岸低気圧」の通過だ。台湾付近で発生した前線を伴った移動性の低気圧が、関東南岸を通過し、その時に寒気が南下していると、東京や横浜

は大雪になる。今回の南岸低気圧は、東京付近で最も降雪が多くなる進路だったようだ。



「降雪は午後から」という予報だったが、実際には朝から弱い雪が降っていた。南岸低気圧の通過では、東京は雨から次第に雪になることも多いのだが、今回は地上付近の気温が低く、最初から雪になったようだ。朝の時点では、校庭の芝にも、教材園の土の上にも積雪はまったくなかった。



雪の結晶の写真を撮影するのは難しい。結晶は着地と同時に、すぐに融けてしまうからだ。私は左手に黒い腕カバー(木綿)をつけて、降ってくる雪の結晶を受けた。布は熱を通しにくく、表面にも凹凸があるので、小さな雪の結晶が融けにくいのだ。

それでも10~20秒が限界だ。融けないうちに、急いでカメラで撮影する。今日の降り始めの雪は、粒も小さく、結晶の形もはっきりしなかった。上空の乱層雲(または雪積雲)の中で形成された結晶が、降下する途中、一部が融けて形も大きさも崩れてしまったのだろう。こんな状態だったので、午前中は地上にはなかなか積もらなかったのだ。